

支柱（鉄筋）づくりもする。ブロックは市販の三割程度で出来ている。街路樹では柳の多いが目立つ。挿して置けば簡単に育つので、苗が作り易いし、金がかからない。公害に強く、風にも強い。柳の葉は、年に数回は生れかわるという。潮風やガスにやられても、すぐに新芽が育って緑が再生するという。ポプラやプラタナス等も、同じ方法で市の苗圃で生産している。

し、整備したものとのこと。また只今の大事業は常盤公園。都市公園として、ここに優るところはないと思われる程きれいになっていくが、なお積極的に整備されつつある。湖畔の丘陵地帯の用地買収に、今後十五億円程度かけるとのこと。他に運動公園・星出公園など緑を増やすための土地がふんだんに準備され、それが新しい森に育っている。常盤公園には、ここにも市の職員数名の他に、精薄施設の卒業生十名が働いていた。



▲工場の緑化・花づくりも見事に



うっそうと繁る街路樹、根元から3.5mは枝がない

かれ、これまでに買上げた作品が街のあちこちに置かれている。緑と花と彫刻の街——宇部の街には心優しい文化の香が満ちている。

■宇部から学ぶこと

宇部の場合、戦災復興から始った街づくりであるが、山崎、上田の両氏たちは、「二十年の歴史」と表現する。緑と花の美化運動に本格的に取り組んでから二十年ということであるらしい。折られても、抜かれても、ひたすらに植えてきた二十年——その熱意と忍耐を、「美しい熊本づくり」の中でも持ち得るか、どうか。

宇部にいる三人の気狂い。その気狂い

に共鳴した市民運動。気狂いを働かせた行政の体質。熊本でもそのような条件を整え得るか、どうか。また、宇部市が投入した息の長い予算。市は場所をつくり、樹や花は市民が植えるという連帯の事業を、熊本でも組織できるか、どうか。

宇部に学ぶことは余りにも多い。たとえその通りに出来なくても、それに近いことをやらなければ、「美しい熊本づくり」は実現できないように思われる。官制ではない、県民総参加の「美しい熊本づくり」をすすめるには、どうすればよいか、それが最大の課題だと思われた。

(自然保護課)

II 県政の前提として

第二回美しい熊本づくり推進会議・知事挨拶から

県民総参加の県政

ご多忙の中にご出席いただきました委員各位に対し、心から感謝申し上げますとともに、この運動の現況、問題点あるいは今後の展望といった点で、二、三の所感を申し述べ、ご審議の参考に供したいと存じます。

ご承知のように、本年度予算を編成するに当りまして、私としましては、単に、年度の事業予算をきめるということではなく、県民の負託にこたえて、新しい県政の中身をつめるという意味で、新しい施策の確立と施策全体の方向づけに、いろいろと意を用いたつもりでございます。

その骨子としましたのは、第一に、時代の急速な流れに対処し、かつこれを先取りする施策を確立することでありま

す。第二には、県民の皆さんとの親密な対話の中でご指摘ご提案いただいた有益なご意見を、生きた県政として直ちに具体化するつもりです。その内容については、人間尊重の県政、地域振興の県政の

二本を柱とした施策となつたわけであり

ます。このことは、既にいろいろな機会にご説明申し上げておりますので、多くを申さませんが、その中で、本日ご審議いただきます「美しい熊本づくり」については、今後の県政の前提であるとともに、また、結果ともなる非常に基礎的な問題として、特に重視しているところでございます。

ひと言つけ加えますと、私は知事に就任いたしましたして、県民との対話ということとを、県政の基本にしてまいりました。今年これをさらに進め、県民総参加の県政でなければならぬと考えます。これからの時代に即して、行政の効果を高

度に発揮してゆくためには、一人一人の県民の方々の、行政に対する深い理解と協力の基本姿勢がなければ、地域振興もできなければ、人間尊重の行政の効果も発揮できないと、私は特に痛感したわけでございます。

積極的に、気長に

県民総参加の県政を目的とします

上、それにふさわしいひとつのテーマを、私、自から呼びかけまして、それに対してできるだけ幅広いご意見を承り、そして一人一人の県民の皆さんが、身近かな所からこの運動に参加していただくことが、大変、大切なことだと考えるわけでありませう。

今後の県政の前提となるもの、という基礎的な問題として特に重視しているという意味は、こういうことであるわけでございます。

この運動推進のため、去る六月十日には、第一回の推進会議を開催していただきましたが、その席上お約束申し上げた通り、その後の県の機構改革において、「美しい熊本づくり」を担当します自然保護課を新設し、県が推進しようとしております事業、施策の調整および進行管理を行なうほか、この運動を県民運動として盛り上げるため、市町村、民間団体、住民組織などの連絡協調をはかるための機構にしたわけでございます。

もちろん、この運動は、事の実態から考えて、そう早急には成果を期したい問題であるということも、よく承知しております。しかし、難しい問題ではあります。例えば、これまでのわずかな期間にもかかわらず、全体としては、おかげで非常に順調に、むしろ予想以上に大きな共鳴をいただいて、事が進んでいるように思われます。お手元の資料で後ほど事務局から報告いたしますが、県、市

町村の事業のほか、いわゆるお役所仕事でない、自主的な民間運動、県民運動が、相当広汎な地域で組織され、実践されつつありますことは、誠によろこばしいことだと考えている次第であります。また、県、市町村の事業に対しても、関係団体などから、きわめて積極的な協力がなされております。この点、当推進会議を構成していただいている団体の皆様のご基力が大きいものであり、感謝に堪えないところでございます。

しかし、一面では、この種の運動は、さきほども申し述べましたように、いわゆる試行錯誤のくり返しのなかで伸びてゆくものであるというように思われま

す。例えば「花を植えて街をよごすな」という警告もあります。これは、花を植えるな、ということではなく、咲いている時は美しい眺めであっても、枯れてしまつと、かえって街の景観を害することになるので、早目にあと仕末をしなければいけないということであろうと思

います。今年、道路沿線など人目をひくところに秋の草花がかなり植えられていたように思われます。また、国道五七号線や球磨川沿岸道路のむくげ並木が好評を博したようでありませうが、「花を植えて街をよごさない」心遣いが、今後、有終の美を飾ることだと思

います。また、この運動全体としては、非常に多面的な要素を持っております。草花で